

を宣伝している。しかし、八〇年五月二十名を超える光州人民の虐殺によって登場した全政権は一貫して、南朝鮮の民主化と南北朝鮮の統一を求める全朝鮮人民、ひいては民主主義を求める全世界の人民に敵対しつづけたのであり、南朝鮮人民の不満をそぞるためにも、また後盾である日米帝国主義との軍事同盟を強化するためにも、これらの事件を利用しようとしているのである。現在、全政権はレーガンのアーバン訪問を阻止したり、「ソノ人民の問題」をめぐる世界的大豆民族解放闘争の前進と、南朝鮮人民の不屈の闘いの前に追いつめられ、一貫反共宣伝と日帝の軍事的テコ入れの開始に延命の道を找出すしかないのである。

## 入管体制を

解体しよう！

現在、日本には公称六七万、実際には一〇〇万、煽るとして日本人民を侵略兵士、あるいは統治への目を越える朝鮮人が在留してしる。彼らは戦前、日本帝国主義の植民地支配の結果渡日を年齢なくしてしまった人々、強制連行により無理矢理連れこられた人々の子孫であり、また戦後再び朝鮮へ経済侵略を開始した日本帝立資本により、「密入管」を余儀なくされた人々である。このひとは在日朝鮮人民を不斷に監視し、抑圧し、凶暴であれば南朝鮮へ遣送しているのが日本帝立資本・国民党政府の反動的朝鮮人政策・出入国管理制度なのだ。そしてこの入管体制をその根柢においてこそえているものは他ならぬ我々日本の人民である。戦前戦後の二三百年人の民の排外主義は、對外主義ではないに一貫して日本へ入管され、抑圧される事によつて體現されているのである。

朝鮮人の差別、抑圧することにより、時には法的に在日朝鮮人の置かれてする、任意に射殺されるなどにより、入管体制の存在を許している。また、民族の不平等を制度化する入管体制が排外主義を拡大、再生産しているのである。日本独立資本はこうした入管体制を根柢に六五、年日韓条約を契機に南朝へ経済侵略を開始、米帝と共に朴正熙反共軍事独裁政権の主人になるとともに、七〇年代資本輸出を賛成させ、現在では籍を上げた膨大な権益を守り、拡大するためにも、軍事侵略を画策しているのである。我々は、眞正的に在日朝鮮人民の政治活動の禁止、南朝鮮から逆出国、「密入國」者の弾圧、在日朝鮮人民の祖国往来の自由の剥奪を行はばかりではなく、直接的に南朝鮮への經濟侵略・全独裁政権へのテコ入れと、朝鮮民主主義人民共和国への敵視を支える体制としても、すばやく朝鮮人民統体を抑圧する

## 外登去！

指紋押捺制度撤廃

日本は現在、南朝鮮へ密入管へ向けて了望者、草入や罰金の引き上げ、一、「防災川」に沿し進めようとしている。外登法による外登法指紋押捺制度を導入するに伴う、朝鮮統一を求める闘いを押し潰さず、すでに指紋押捺拒否者の裁判は五名を数えるに至り、采青には判決も下されようとしている。我々は、抗税抗辯舌鬪争を進める在日朝鮮人民を孤立させることがなく、外登法指紋押捺制度全面撤廃を要求し、反動的入管体制を解体しなければならない。

1.21 京都反戦集会に  
結集しよう！

午後六時

部落解放センター

講師：

金鶴寛氏

# 八十年度反戦集会も月曜日やう！

新

聞

研